

レポートタイトル  
長いタイトルは\\で改行

学生番号 AL18036 片岡 凪      \\ and で 2 人目 <sup>\*1</sup>

2020 年 12 月 24 日

<sup>\*1</sup> \\ thanks 芝浦大 で著者脚注へ（著者の間に\\でも可）

## 目次

1	Cloud LaTeX へようこそ	1
---	-------------------	---

第 I 部	部見出し	1
-------	------	---

1.1	サブセクション . . . . .	2
-----	-------------------	---

## 概要

`\maketitle` の後に `\beginabstract` `\endabstract` で概要が載る

## 1 Cloud LaTeX へようこそ

Cloud LaTeX は, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使った文書の作成・管理をクラウド上で行える Web サービスです. L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使うと, 複雑な数式



$$\frac{\pi}{2} = \left( \int_0^\infty \frac{\sin x}{\sqrt{x}} dx \right)^2 = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(2k)!}{2^{2k} (k!)^2} \frac{1}{2k+1} = \prod_{k=1}^{\infty} \frac{4k^2}{4k^2 - 1} \quad (1)$$

を含んだ読みやすくきれいな文書作成ができます.

本サービスは, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 文書をリアルタイムに保存・コンパイルし, ユーザーアカウント別に管理します. そのため, 本サービスにログインするだけで, どこからでも作業を再開でき, ファイルを持ち歩く必要はありません. また, 様々な L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレートが用意されているので, 手軽に文書を作り始めることができます.

Cloud LaTeX では, 作成される PDF そのままのレイアウトで表示する PDF ビューモードがあり, コンパイル画面を確認しながら文書を作成することができます (図 1) 日本語では, pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X / LuaL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X / upL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X でのコンパイルが可能です. また, 日本語や英語文書作成だけでなく, 中国語・ハングルに対応した XeL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のコンパイルも可能です. ぜひ使ってみてください.

## 第 I 部

# 部見出し

section\*: セクションから数字を削除

### 1.1 サブセクション

#### 1.1.1 サブサブセクション

■段落見出し

サブ段落見出し

引用

`\begin{verbatim}`

`\end{verbatim}`

で記号を文字通りに出力:-)

・数文字程度なら `\verb | |` で可能  
^^;

| でなくてもよい `>w< >w<`

`\verb* | |` でスペースが `_` になる

・英字での改行は空白になる

like

this

↓

like this

・%で改行無視

likethis

・`\_`で 連続空白

・~で改行なし空白 ( )

・\$ などは `\$`

・アクセント文字 â などは `\^a`

・区切り—は---

・`\textgt`でゴシック体になる・

`\textit`でイタリック体になる(はず)

・`\Large_`で大きな文字など

・`\begin{} \end{}`を環境という

・`\begin{flushleft}`左寄せ

`\end{flushleft}`

左寄せ

・`\begin{center}`中央寄せ

`\end{center}`

中央寄せ

`\begin{itemize}`

`\item item`

`\end{itemize}`

で

● 箇条書き

`\begin{enumerate}`

`\item item`

`\end{enumerate}`

で

1. 番号付き箇条書き

・`/footnote{脚注}` \*1

・`\marginpar{欄外}`

・`\reversemarginpar{反対の欄外}`

・`\underline{}`でアンダーライン

・`\hrulefill`

・`\dotfill`

\*1 脚注

欄  
外

.....

- ・ `\fbox{fbox}` で fbox
- ・ `\framebox[2cm]{fbox}` で fbox
- ・

```
\begin{equation}
E=mc^2 \label{emc}
\end{equation}
```

で

$$E = mc^2 \quad (2)$$

- ・ `\sum_{k=0}^1` で  $\sum_{k=0}^1$
- ・ 式`\ref{emc}`によると = 式 2 によると
- ・ 文 章 中 で 使 う な

ら`\displaystyle \sum_{k=0}^1`\$

ほげ  $\sum_{k=0}^1$  ふが

- ・ `\bigl((a+b)+c\bigr)+d` で  $((a+b)+c)+d$
- ・
- ・ `\frac{b}{a}` で  $\frac{b}{a}$

```
\usepackage{amsmath, amssymb}
\usepackage{type1cm}
\mathbb{N, Z, Q, R, C}
```

・ 奥村 [1, 2, 181–204 ページ] に  
よると、`\cite[181--204 ページ]{latex2e,statistics}`で参考文献を表示できる。

## 参考文献

- [1] 奥村晴彦, 黒木裕介『LATEX2 ε 美文書作成入門』(技術評論社, 2017)
- [2] 石綿元 (2019)「統計学 (確率と統計 2) 講義 (確率と統計第 3・確率と統計第 4) < 2019 年度>」,

<<https://lecture.neocities.org/>> 2020 年 1 月 17 日アクセス.